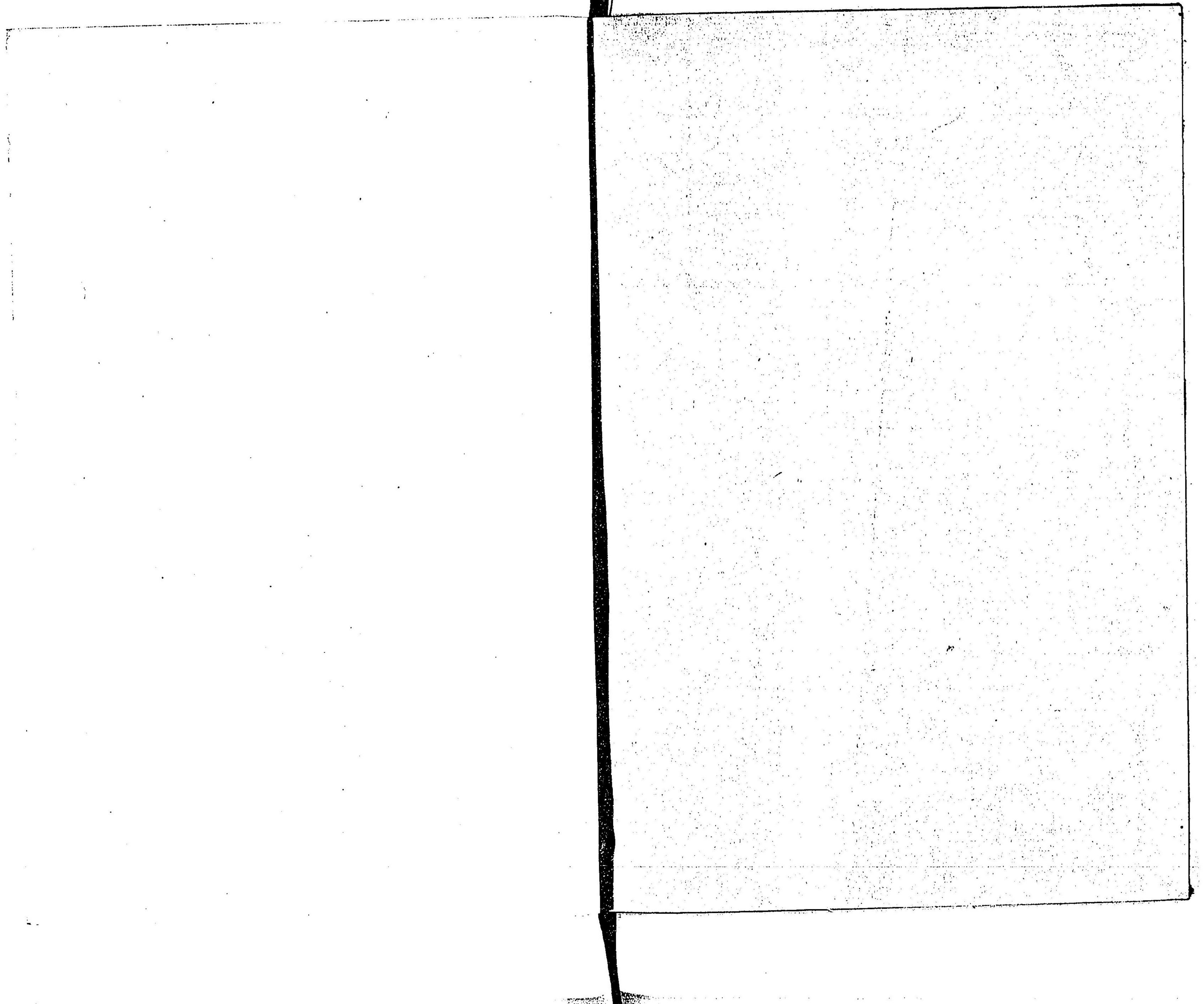


特42
446

志賀 鶴 小 梅 抄
賀 賀 賀 賀 賀
七

志賀 鶴 小 梅 抄



志賀

道ある邦代の花見月々都に

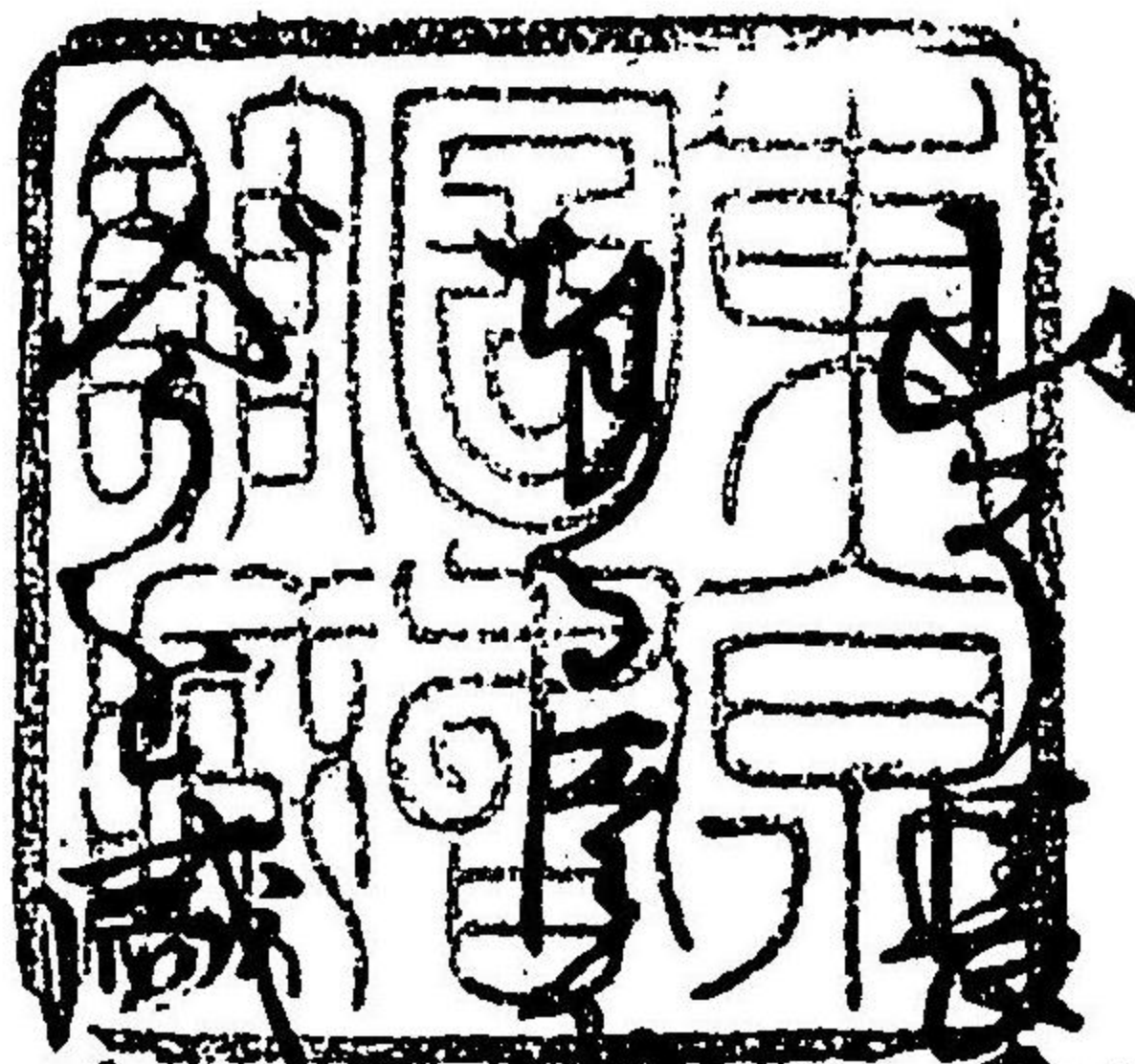
松身ハ當今よりは

也。諸も江別志賀の山栴

成由家名に宿ま今志が

れ山路と急ハ春乃色たあひく

きり胡馬もさぐくのさひの音



羽衣まゝの類をくはるは是れそののちのちの
志賀の山にえや湖邊にて詠め給く

早句

蕙の程よは初志を變て山よきく

暫此可のよそはたな遠よとるま

市邊や志うれ都のちとちとて昔

あつた山様 けさよあわぐや

女はあつた情の跡に路よ

自言ぬ想を平了牧笛の聲に人同萬の

様へく毎にわたくしはたつた様お

いふまゝにみる眼の前をさうの敷もや

後へくし餘りよはまはくまて

又歸りてはくまへく入るも自浪

芝の谷のちとちのちのちのち

松のちとちのちのちのちのち

乙子若人の懐は保まきくはさむる業
 を物して貫きたるは我の出入り
 うらむと今人の道はわく
 かくらう一隊は事あるにあらはし
 代は古の國を東に民を西に萬機の
 まりたるは信のまじり
 時は至るべしは道なりとせしむる

今に後予と櫻はに二百六十三と始
 してまかたり人々の道なりと
 いろやうの杖まきの女の葉の露の
 色はよきとまじりのなかりて
 一室はまじりの人々の道なりと
 茅木能及律法書はの懐に
 井のあきくは思のまじりの

巻 五

我々の心もあつたや、懐かき所よりの教多
らむ。其の事、わが先づか書留め、成
り敷島の道者、是代のまてつらひ
され、三十一文字の御て守護し給
て、無見頂相の如きも、感應られ給
へ。君を、少くも、萬民時と樂まて、
田端の雲のまて、四海の鳴の外、
送る

遠の志萬歳の響、入とまき、うらまき
素、今も、くまは、代ひ、うらま、方、
く、道、直、傳、る、の、東、南、の、雲、
西、北、の、霧、も、
や、花、も、常、盤、の、
音、
地、を、動、し、
霧、が、

あり神さへもさへもさへもさへも
 志賀の山越くも同花さの野も
 妻へさへも海の志賀幸澤の松
 月夜にさへも海の妻のつらさへも
 さへもさへもさへもさへも
 さへもさへもさへもさへも
 さへもさへもさへもさへも
 志賀の山越くも同花さの野も

新也邦樂のまじり舞さへもさへも
 山人のさへも新也邦樂のまじり舞
 和さへもさへも新也邦樂のまじり舞
 代々のさへも新也邦樂のまじり舞
 さへもさへもさへもさへも
 さへもさへもさへもさへも
 さへもさへもさへもさへも
 新也邦樂のまじり舞さへもさへも

地 花きこもほし白和幣 中位 松立の

青和幣下の流れたるる屋あつたゆき

舞の下也下傳下むらうれの下音下もあつた

つらさる花の雲の下抽下とせつ

くれ奔下の下清下獲下の下さ下ら下り下拍下み

をそろ入下ておさく下まき下の下面白下は

あつたれく

第 鶺鴒

世に捨人下の下様下の下さ下ら下り下あ下ら下る

いつく叫下えん 下是下の下諸下國下一下見下の

僧下さ下く下の下我下此下程下の下三下態下野下は下美

て作下又下是下より下都下よ下の下ほ下ら下る

思下ふ下の下程下も下あ下ら下り下歸下り下記下の下路下の下南

都下の下う下ら下り下程下行下来下ハ下和下泉下の下隆下田

東書

乃森（位）よりしるす（位）丸松原（位）よりしるす
の（位）安（位）復（位）の（位）白（位）也（位）新（位）設（位）の（位）書（位）也（位）の（位）書（位）也（位）
乃（位）森（位）よりしるす（位）丸松原（位）よりしるす
乃（位）森（位）よりしるす（位）丸松原（位）よりしるす

津乃國書也の（位）書（位）也（位）の（位）書（位）也（位）の（位）書（位）也（位）

乃（位）森（位）よりしるす（位）丸松原（位）よりしるす
乃（位）森（位）よりしるす（位）丸松原（位）よりしるす
乃（位）森（位）よりしるす（位）丸松原（位）よりしるす
乃（位）森（位）よりしるす（位）丸松原（位）よりしるす
乃（位）森（位）よりしるす（位）丸松原（位）よりしるす

乃（位）森（位）よりしるす（位）丸松原（位）よりしるす
乃（位）森（位）よりしるす（位）丸松原（位）よりしるす
乃（位）森（位）よりしるす（位）丸松原（位）よりしるす
乃（位）森（位）よりしるす（位）丸松原（位）よりしるす
乃（位）森（位）よりしるす（位）丸松原（位）よりしるす

埋^トま^トし^ト〜^トあ^トい^トの^ト衆^ト人^ト衆^トも^トあ^トら^トい^トる

ま^トら^トの^ト衆^トり^ト〜^トあ^トい^トの^ト衆^ト人^ト衆^トも^トあ^トら^トい^トる

此^ト者^トと^ト衆^ト人^ト衆^トも^トあ^トら^トい^トる^ト衆^ト人^ト衆^トも^トあ^トら^トい^トる

光^トり^ト〜^トあ^トい^トの^ト衆^ト人^ト衆^トも^トあ^トら^トい^トる

牙^トと^ト衆^ト人^ト衆^トも^トあ^トら^トい^トる^ト衆^ト人^ト衆^トも^トあ^トら^トい^トる

〜^トあ^トい^トの^ト衆^ト人^ト衆^トも^トあ^トら^トい^トる

〜^トあ^トい^トの^ト衆^ト人^ト衆^トも^トあ^トら^トい^トる

〜^トあ^トい^トの^ト衆^ト人^ト衆^トも^トあ^トら^トい^トる

〜^トあ^トい^トの^ト衆^ト人^ト衆^トも^トあ^トら^トい^トる

〜^トあ^トい^トの^ト衆^ト人^ト衆^トも^トあ^トら^トい^トる

〜^トあ^トい^トの^ト衆^ト人^ト衆^トも^トあ^トら^トい^トる

〜^トあ^トい^トの^ト衆^ト人^ト衆^トも^トあ^トら^トい^トる

〜^トあ^トい^トの^ト衆^ト人^ト衆^トも^トあ^トら^トい^トる

〜^トあ^トい^トの^ト衆^ト人^ト衆^トも^トあ^トら^トい^トる

147

148

可キサセシノ
昔々わのノ海に渡れるは道なき

つぎとつぎとつぎとつぎとつぎと

物モノのノ海に渡れるは道なき

上ウノノ海に渡れるは道なき

つぎとつぎとつぎとつぎとつぎと

海に渡れるは道なき

海に渡れるは道なき

海に渡れるは道なき

海に渡れるは道なき

海に渡れるは道なき

海に渡れるは道なき

海に渡れるは道なき

海に渡れるは道なき

海に渡れるは道なき

海に渡れるは道なき

すくしはるるく珍しく南扱ハ
鶴のこゝろくく其時のる極ましく
かろく断てハ懇よとくひひし
相とを法院の清在位の時仁平の
ろほひまよあく津サ惱あり
有言し高僧貴僧とじて大法を傳
さしきたるる其さくく更なるる

きりし津サ惱の刻うるありあり
くが東之條の森のあふり黒雲
一村を来つぐ殿の上よたほハか
あろくをひし給ひきりトテまあり
云卿きんまありきりて愛知の去
成くまきよはてき固るくく
源平あ家の其を撰きりくろく

頼政とてえしひ出さしつりか
 頼政を
 時ハ兵庫の及よりしきたる
 即ちハ猪早本唯一人百々しり
 我々の二重の将軍よ山鳥の尾を
 といたりもき疑かり矢二筋を
 ぬらよらうして敵ハ大敵
 して清徳の討伐と今やと

海居たり能去なりあはれ
 一村を去り清徳のうはたほひり
 頼政とてえしひ出さしつりか
 しきまのひありのち矢とつり
 つりハ南無情大業陸陸中よ
 新会してよつりか
 てとてえしひ出さしつりか

一佛以道親見法界草木國土悉
皆空相の道ひろく法
よとたふ此法經とく志
まは法の祥も浦収
やまも道や道わうう
絶つてくつよ人の鶴の志
ゆるの浪よまの深め深め
三

皆以佛 精非精は自ら
道 申しし たの母も
五十二類も我同性の思樂より
是て真の日月の
是れもわが翁や
目前より多者といふ面を精
心より替りぬる愛人の心

くまのりつり暗きまのりつり入るまのりつり
まのりつり照さるるまのりつりつりつりつりつり
世の端の月と共に清月を
まのりつり海月とまのりつりつりつり

小原寺

^{大虎河}是ハ後白河院ははなる屋下也

おも此度先帝二位殿さうり
まのり平家れ一門長門乃國り
まのり仲りて毒果給ひて
院も清牙とあまきり勢たまひ
まのりまのりまのり

山源
ありたりまし。三行身宛頼。九郎
大丈乃判官義經兄弟供り中
三極の非實事ゆへあぐ都に納
り給ひん去程よ女院ハもあつこよう
つりせ給りゆくも。と。先帝安德
天皇乃出善光并に二位及乃御
給は吊れ為よ。小原乃寐光院も浮

世をいひはせ給ふ。と。白清幸と教
されは訪ひ有へまとの勅定あぐ作
同世幸乃山路をも中付も也と存
作。あぐま報りある。小原出幸乃あ
當れハ行幸乃道をも作里具清女
と仕入サシ女院。あぐまのきりきり
社ありし。あぐまのあぐまのあぐまの
僧

ようりきぬ染乃扉の音乃音
 信のまととよゆ人あませがきやうは
 かしきけは行りしきかよつきて
 おとんと人自あまうあうりきれ
 下秀
 打ちよ公あまれと向あさう
 上秀
 書本の寄のせとぐく精の層様れ
 急がれらの書あうては公本れう
 ヤラ

清つらぬる人まれは成りてく
 下一
 えんり巻よ志きす思乃行法とて
 雨々しくり扉ももさるまの神乃
 おさうれくかあは太細言れ局
 女院門
 一
 房
 音もは供や。書本わらひを打供清
 音
 ようあやふへし
 サレ
 たて入るひんあ

錦をばらけしるる
 月夜まはるる
 山時鳥のさきも君の
 法皇御の行
 侍うほあり
 法皇御の行
 と教後人有て他
 志きそは後の花
 上野
 若のひまより落るる

秋乃音はくより
 垣もいたいの山
 字乃法堂あり
 てなまよりあつ
 ちくく月も又
 ありありおと
 女院の法堂室
 行よの真

あふらほをひかり。藜藜をくるとは

きう。景おまごの氣色やあめりよ此

菴室のうら入書内申の ^{内信} 知めて

渡り給う ^軍 是の方軍の路の守約言

あく ^{内信} 引ぬぬ人自ま事なる出

甲への行とて清渡り給う ^軍 ばいん

女院の信丹法坊ひの爲は官自入屋

法事あてん ^{内信} 女院のわらひたしは

法事あてん ^軍 法留事あてん 法事

ろよもしてくは女院の上の出入花つ

ま信あてん。いはあぢやろよ ^{内信} 習此

可 ^{内信} 法皇

ま ^{内信} 法皇

あ ^{内信} 法皇

御理了。皇人の信西の娘が乃内侍
 あつた果あて公下かくあさましき
 ありあつたもさるぬ此のあは恨
 とあつた思ひ公あつた法重女侍あつ
 ちよ御禮りあつた内侍上乃山入花摘
 出あて公法相済供よき内侍大納
 言の房公あつたをたりあつたあつた

清政あつたあしサニ女院明日もあつた
 色あつたあつたあつたあつたあつた
 らぬあつたあつたあつたあつたあつた
 馬あつたあつたあつたあつたあつた
 他方便唯攝あつたあつたあつたあつた
 始あつたあつたあつたあつたあつた
 覺南無阿弥陀仏あつたあつたあつたあつた

よ人音乃あまのこ有志うしく思ふは

休内傳今社乃うらつてひを

女院乃出歸めて法らてアまう女

院大細言の爲さ内傳事そ能か

ひちよりまらせ給ふ女院あつた

らき給ふ事なむらう内傳ひ打る人たる

大細言の爲あり内傳いふは會乃は奇

下女院

あぐん中よあそま執の圖浮

乃世と忘れもるううまをとま

たもらまはさく下傳瀧色袖乃ま

きもつまや下傳やち思入法乃

人同じ道と頼しあり上一合は窓

乃前内傳く下杉如下花明下を却つ

十合乃染の靡よ下ち下主の素下作下と

中

伽_レの_二思_ハけ_レり_一ま_レり_レの_二波_ノ多_シい_レり
 へ_レ歸_ルと_レ思_フその_二源_ノ也_一宇_ヲ也_ニ悉_ス
 ち_ニ又_ニ敷_ハ海_ノの_レわ_レく_レ末_ニまで_レか_ニも_レれ
 も_レい_レろ_シ大_ニ原_ヲ也_一を_レれ_レり_レの_二里_ノの_二細_ノ道_一
 ね_レほ_レろ_シ乃_レ清_ク水_ニ月_ノあ_リて_レは_レ影_也今_ニ
 手_ヲ繰_ルと_レい_フ吉_キ地_ニ扭_ル也_ニ也_ニ打_ツ志_カり_レ
 也_ニ中_ノ成_リ時_ニ常_ニあ_リる_一也_ニ上_ノ女_ノ院_ニ出_テ雲_ノ過_シ夏_ノも_レ

毛_ノ也_一毛_ノま_レり_レの_二折_ノの_二あ_マり_レる_一青_ノ葉_ノも_レ
 ま_レり_レの_二夏_ノ木_ノま_レり_レる_一乃_レ名_ノ手_ノ行_クま_レり_レ
 多_シ一_ニ幸_ハ山_ノの_二白_ク雲_ハ教_マり_レり_レ
 花_ノの_二か_レも_レ也_一夏_ノ葉_ノ乃_レ志_カを_レり_レる_一原_ノ
 ね_レほ_レろ_シと_レあ_リて_レ入_リて_レ道_ノの_二末_ノ也_一女_ノ家_ノ
 と_レて_レ也_一文_ノ字_ノ乃_レあ_リる_一也_一か_ニも_レも_レも_レ
 歌_ノを_レ惜_ム也_一地_ニ也_一也_一か_ニも_レも_レも_レ

けきまおねうえよ女笑う女わ女池女の女藤女
 浪さうかき地て地是も御幸女と女
 けうほよ女青女城女か女れ女の女を女う女橋女う女花女
 ぶりもあつ女う女か女ら女中女う女か女ら女う女橋女を女
 天女と女教女思女う女き女腐女く女も女か女ら女き女所女
 此女清女き女集女れ女と女ほ女う女の女さ女う女う女箱女も女
 有女寺女住女居女所女も女か女く女思女う女ひ女も女
下女院

深山乃女朽女く女の女も女腐女か女して女雲女井女の女月女
 せう女う女き女う女あ女ん女と女か女根女よ女思女ひ女出女し女よ女
 此女出女き女も女ほ女う女の女さ女う女の女く女も女う女ら女り女
法う女子女結女入女り女曾女物女う女入女れ女申女き女ら女ん女
 女院女の女道女の女方女橋女ま女さ女ら女院女へ女き女ら女
 とも女や女公女堂女障女の女位女あ女ら女て女き女ら女院女に女
 事女あ女ら女の女あ女ら女の女あ女ら女の女あ女ら女の女あ女ら女の女あ女ら女の女あ女ら女
女院初女定女の女

けらさるるあれも。借我を棄
 みるよ。支^{クリと名}を親とれ。乃乃願よ
 根と。離^中きたる。夢命を輪とれ。江
 ねほと。りよ。つあ。う。舟。ま。れ。上
 乃た。う。も。ぞ。よ。さ。る。露。れ。海。う。う
 ち。う。人。果。ぬ。年。月。も。終。よ。五。裏。の。木
 ち。う。の。清。も。ち。ぬ。の。ら。れ。中。よ

高^高道^道乃^乃ち^ちま^まい^いよ^よ。味^味く^くあ^あり^りま^ます
 一^一門^門西^西海^海乃^乃は^はま^まり^りさ^さる^る。罪^罪ゆ^ゆら^らく^くも^もあ^あら^らず
 ま^まぬ^ぬ舟^舟乃^乃ち^ちら^ら海^海ま^まり^りさ^さる^る。あ^あら^らず
 志^志原^原あ^あま^まり^りさ^さる^る。い^いま^まも^もあ^あら^らず
 ち^ちう^うく^くあ^あら^らず。又^又あ^あら^らず。時^時乃^乃ち^ちの^の後^後れ^れは^はい^いま^まも^も
 破^破よ^よら^らず。乃^乃ち^ちの^のあ^あら^らず。さ^さら^らに^にあ^あら^らず
 ち^ちう^うく^くあ^あら^らず。乃^乃ち^ちの^のあ^あら^らず。さ^さら^らに^にあ^あら^らず

罪人も亦も清まらぬ
上女院 陸の淨い
 ありし時を^{法門} 誠まある所の修程道
 乃たつゝいゝ意ねり^下ろ^下や^下教と^下馬^下の
 蹄の音^下え^下け^下の畜生道^下の^下材^下と^下ん^下
 才も^下材^下あり^下人道^下乃^下づ^下る^下一^下ま^下と^下あり
 ま^下つ^下ら^下う^下ま^下り^下乃^下を^下て^下る^下か^下前^下ま
法門 誠まある程に^下ろ^下た^下る^下の^下光^下帝^下乃^下漸

寂期の有様行と加渡よりひつる法把
女院 語^下人^下具^下因^下乃^下る^下様^下や^下よ^下け^下て^下根
 り^下も^下長^下門^下因^下も^下も^下と^下も^下後^下あ^下て
 築^下茶^下入^下ち^下ら^下ま^下る^下落^下行^下ま^下ら^下し^下り^下ド
 ありしよ^下ま^下ま^下も^下ま^下さ^下し^下し^下身^下の^下あ^下ら^下ん^下き^下
 行^下了^下陸^下摩^下方^下を^下ね^下ら^下ん^下と^下申^下し
 打^下答^下の^下金^下の^下聲^下は^下ま^下は^下ら^下ん^下と^下申^下し
下

よとみ〜よ。結やちの教經の御書の
 太郎兄弟も左女乃脇よはら。家
 乃供きよとて海守よ奉て入_下新平
 細言_{三三三}知感の仲ある母乃いりせりよ
 甲とせら〜よ。まぶらのとこの家
 長より〜と。かき〜よ。か〜。其ま
 海よ入よ多り_下。時二位殿よあは
 海よ入よ多り_下。時二位殿よあは

〜まぬよ。ほり_{三三三}袴のうもたぐも
 ちんそ。秋の女入ありとても。歌の
 手よち〜。ま〜。の〜。と
 ちんそ。女徳天會は手よとら。母の
 よ。娘母いつ〜。か〜。と。物言さるよ
 此國が〜。洋はたま〜。か〜。美
 き可也。極樂世界と〜。て。た

一 紀河の此段乃下まきぬあは
一 清寺あせむこと信せしは
一 の相さゆひたりとて東よ向き
一 て天照大御は清く海戸らき
一 又十念乃御たあまよせ
一 たりま^{女院}今そきふまはす
一 川乃流れよき返し唐もも
ヤラハ

一 やつと^カ制と寂期の御制を
一 千尋し^カつこ^カ入^カ給^カま^カつ^カも^カつ^カ
一 下^カそ^カ志^カ乃^カ海^カ中^カ乃^カ地^カより上
一 てうひあ^カ命^カま^カる^カ人^カぬ^カた^カる^カ龍^カ
一 顔^カあ^カひ^カま^カり^カ乃^カあ^カら^カよ
一 神^カ志^カ厚^カら^カら^カか^カま^カら^カま^カて
一 も^カは^カら^カみ^カあ^カら^カく^カま^カあ^カら^カま^カら^カや

接つる月日短く移りまじり可成
入る世に我長手も信入る事
も心ゆく事よきつゝ
半信 信入る事

早の早集の國信吉の事
心俄に村あしつゝ
かゝる世に思ふ事
由る 手書 事松月世集入る事よ

さし入る事よ
まゝの事よ
半信

無縁の世に
女信
さうお家持は事よ
心ゆく事よ
さし入る事よ
さし入る事よ

おあはれはしき借入は
取降目も是行はあつた給
とてまもあつた夕露の障
乃宿はうまいたくを油と
打まのあはれ様人上高西はわ
ふりて靴く東南は来る雨はあ
多し次暗て月よあつた
も可

信若の松吹月もして様人の夢を
ばまのあはれ様人
るり女行はまてり男是れ
さうして大敷同敷帯乃衣裳のふ不
審よ結久女実よくは不審はあはれ
ふ人の形見よはれ是よつと義女は語
めはさるるまはれ

物語の^女昔當國天皇幸寺の淡河と

しりく伶人あり同く此佳者あり富土

と中伶人ありかま此内裏の管絃の

やくと舞ひさるは都よりりし富土

此後を給りしよりして淡河舞しりし思

富土とありましり討きあはさなりしが

妻むしりあはさなりし常き太鼓を

ふとく舞ひしりし終りなりく女

くは縁なりし男と給りし人^甲松様

の妻くあつなりし富土の妻なり

のりし人ありし富土の妻なり

ふとく舞ひしりし終りなりく女

のりし人ありし富土の妻なり

ふとく舞ひしりし終りなりく女

給ふもや女白あはれもも女思ひの御

およそ慕ひ後口直にほひておのゝとて思ひ

きこへん口直おのゝ不審ハ物さあ。形ハ

大敷逢の三の愛ハ物。給ふも

女伊主ハ首ハゆ行を大敷行も若じし

甲伊身おろろめ女此亦代ハ書信も

あはれも女口直のつゞくあはれも

まのきゆの執りたまひ給ふも

捨た書きし甲くまもま

仏法様くちりし口直をたは法華ハ異ノ家

甲伊才一ハ世の諸仏乃出雲の本懐

成佛ハ直道なり口直あはれも

疑めりし口直一者不得作梵天王

帝釈三者魔王口直女持輪ハ五者

冷入玉吉半地 夕面白也花の 七
 舞上 花の 愛の 給入
 花の 枝の 雲の
 花の 期も 夜半樂の
 花の 昔の 花の 花の
 浪上 花の 浪の
 花の 青海波の 浪の
 花の

花の 枝の 雲の
 花の 期も 夜半樂の
 花の 昔の 花の 花の
 浪上 花の 浪の
 花の 青海波の 浪の
 花の

梅林
新に就きしそ女にわらふもあはれ
慈の樂の敷きつゝあり我の心
下女
思ひきりしを
下女
了らばきり月きり音樂の
ハ松月よたつと有し
下女
の面敷もつちも
下女

持世寺

教へた道も一聲の法を
方おひろせ
是ハ念仏の行者
一遍と申るす我の度三徳野
しより一七日手籠り證誠殿より
あつてつゝあつたは
まてつゝ六十萬人
あつたは

とてあはれむがく國をさしおこすべし

夢よほきまら都へいづらて

多^ク色^ヲ頼^ミず^シの^ハ世^ニく^レる

立^つる^核衣^紀の^開守^りたり^つり

入^目救^はり^て時^もあ^らず

比^花の^都よ^きら^く急^行

よ^見つ^る也^都都^都都^都都^都都^都

何^きし^し廣^く思^ふの^心新^し

や^う仁^ほ入^力と^貴賤^難集^の

さ^ら神^とい^ふ鐘^とい^ふ新^し

ぬ^もあ^らて^合仁^三昧^の道^場出^る

入^るの^あら^はし^可ら^はす

洛^陽の^花入^衣の^更よ^らす

條^ノ上^ノ鐘^ノ入^書の^核名^ノ法

女
身鏡入響 聴入人音 行の松
内 誰もさきく 加し上 活陸
頼まのさ誰もさきく 活のさきく
甘く 薄葉の 薄のさきく
行疑ひのさきく 難也此
さきく 控ひまのさきく
わし人の活れさきく

女
いふ人 (事) 行
あさく 半 六十万
人 六十万
不審 六十万
是 三 六十万
文 六十万

いたよふと母へて言交人其言無
 可憐いよと母へて言交人其言無
 四句入交しむと母へて言交人其言無
 万比路んぐち入抄しむと母へて言交人其言無
 平平いこく語しむと母へて言交人其言無

一遍は十界信を一遍神萬行敵
 会一遍神人中とて妙好華。此四句

の文れよ入字あれハ六十萬人と
 書るなり 今法又書まはれ

の膏も題の海陸の教へ 其言
 遍照十方世界よもるかあはは
 法成さるうよ六十万人と人教を
 いたて定むる也 其言
 其言は其の六十萬人其人教を其言

捨て申交言申南無申阿彌陀佛申

第一節申入申定申入申定申入申定申入申定申

定申入申定申入申定申入申定申入申定申

定申入申定申入申定申入申定申入申定申

定申入申定申入申定申入申定申入申定申

定申入申定申入申定申入申定申入申定申

定申入申定申入申定申入申定申入申定申

定申入申定申入申定申入申定申入申定申

定申入申定申入申定申入申定申入申定申

定申入申定申入申定申入申定申入申定申

定申入申定申入申定申入申定申入申定申

定申入申定申入申定申入申定申入申定申

定申入申定申入申定申入申定申入申定申

定申入申定申入申定申入申定申入申定申

定申入申定申入申定申入申定申入申定申

申

申

申

申

申

五

五障の害もくもくたまたまおぼろ
此世より二世安樂の國よまされ
行んば嬉地々安樂の國あり
安くまゝ蓮華の臺の縁より成
有勢下女やぐばらうありては徳の
因縁中も道下る事我も頼女る
滅此教女或ハ利益無量罪女の

經の後の世も地 淨土一教と女 あり
多寶多やぐばらう萬諸の教皆是あり
仏ありて此法多本多なるも上人も同
所多持多の寺多なり多佛多と上人多を一多持多
おこしあり女 あり女なり女の誓願
寺と打らる類とのまよ入の法
餅多もくもく字多なり多ありて珍

久^レ見^レる事と愛

あうれむしう警願寺とら

たる顔のまじりて身よま

わ^レも^レ茶^レの^レは^レ苦^レの^レ行

くま佳入^レ書^レの^レ櫛^レの^レ塔^レ

引^レも^レ清^レ茶^レの^レは^レ苦^レの^レ行

くま佳入^レ書^レの^レ櫛^レの^レ塔^レ

引^レも^レ清^レ茶^レの^レは^レ苦^レの^レ行

くま佳入^レ書^レの^レ櫛^レの^レ塔^レ

引^レも^レ清^レ茶^レの^レは^レ苦^レの^レ行

くま佳入^レ書^レの^レ櫛^レの^レ塔^レ

引^レも^レ清^レ茶^レの^レは^レ苦^レの^レ行

くま佳入^レ書^レの^レ櫛^レの^レ塔^レ

引^レも^レ清^レ茶^レの^レは^レ苦^レの^レ行

部八種ハチノシテとして石塔イシノイの火ヒの光ミツを
とたよトタヨ支シよヨきキりリくク 佛ブツ説セツよヨほホせ

整ツツぬヌ寺ジとト打ウたタるル額ガクのノまマ六ロク字ジの
名ナ号ガウとト書カキ付ケてテ仏ブツ家カのノつツしシ名ナは
書カキたタるル也ヤ異イ音オン書ショ董トウしシつツがガくク花ハナのノ
くクらラ音オン樂ラクのノかカらラしシるルのノあアらラたタ
はハ實ジツにニあアらラるルのノあアらラるルをヲ

頼タシつツ鐘シヨウのノあアらラるル同ドウ音オンよヨ南ナン字ジ
あアらラるルはハ公コウ孫ソンのノあアらラるル也ヤ額ガクの
名ナ号ガウもモあアらラるルはハ公コウ孫ソンのノあアらラるル也ヤ
はハ名ナとト額ガクのノあアらラるル也ヤ佛ブツ前ゼンのノあアらラるル也ヤ
はハよヨ我ガのノあアらラるル也ヤ和ワ泉セン式シキのノ
とトはハわワらラるル也ヤ公コウ孫ソンのノあアらラるル也ヤ極キョク樂ラクのノ
歌カ舞マヒのノあアらラるル也ヤ成セイたタるル也ヤ二十ニジュウ五ゴの

地... 聖菩薩の徳は法よの慈雲をあげく
夕日歎 常入るときはかきまじく
地... ありく 愛を極楽世界よまれき
か... 難しよ 聖 作當寺極樂寺と
中... におかえりて 智て 宜し 法浄本ま
多... 慈悲萬行の 大菩薩 喜目の 明非
御作ともや 非とく 佛とく 公

... 夏水波の隔あり 然るは 和意の
歎ひくく 一 躰も あり けり 雲
海... 是は 本ま たり 上 毎自一
度... 西方 浄土よ 通ひ 給ひて 来迎
了 持て 扱ひて あり けり 持て ます
名... 聖 菩薩 あり けり 雲 けり あり けり 成
来迎... とも 落自れ 前とも 昔在 あり けり

浄名の法華一處と西方の淨土如來
慈眼視念日あり中一たき
視世音三世利益同一持る親も神
かため悲願あり上女若新成佛乃
さうさうさうさうの人はわう力よひん
かき法し浄海のさき掉ちて
も懐く彼岸よりさうさうして樂を極る

浄土道あり十要八部のみまのひの
雲もやまぬ善の如月の西方も家
とさうさうさうさうの浄土と此
物願ちてあじあり下女かき
さうさうの佛りさあさるん
獨あて佛は名と尊ま上地さう
歸る法は場入く法の場入

下段

うゑも妙地ある様名れ抄地 漢地やま

御音地く、地多樂地の地色 異音地意地して

花地ふるも地真地 神地さう地も地や地み地く地も

貴地き地し地し地人地の地ま地や地く地か地ち地ま地ほ地ま地り地

う地ら地る地面地と地よ地湯地堂地ま地う地て地る地六地字地れ

か地く地と地皆地一地同地み地礼地し地給地よ地る地あ地ら地る地

ち地り地き地ら地る地亭地瑞地り地那地

